

編集後記

<市川平三郎>

「ああ、今月は症例研究特集号か」と、題目をさらっとみて、目についたのを拾い読みして、「あとはいつでも読めるから」と、積んでおくことが多くはないだろうか。私も今月は全部じっくりよんでみた。

編集部に送られてくる投稿症例は多い。特に最近のは、選び抜かれたものだけに、味わいが深く、コクがある。よく読むと必ず何か得られるものがある症例が多い。

しかし、何といっても、早期胃癌研究会提出の症例が面白い。一度研究会で、見たり聞いたりしているから、もう、よさそうなものだが、更に詳しく、あの時の状況を思い出しながら、また、概評を書かれた先生がたが、研究会で発言された内容を、どう活字で表現されているか、など、楽しい。そして、私は、このあたりの微妙なところが、これから後の研究の指標となったり、ものによっては、研究の焦点となってくるのであると思う。

同じような意味合いから、座談会がまたよい。座談会は研究者の本音が出て、格式ばらないところが、何とも捨てがたいものである。症例研究特集号にも、あまり長くなくてよいから、気楽に読める座談会が、いつも載せられたらと、思ったりしている。

<編集> 早期胃癌研究会